

## 野口英世 PR プロジェクト

グラフィック分野 高橋ゼミ

A2201726 紋間優 A2201728 八巻彩

### 研究の背景

平成 30 年は会津出身の偉人である野口英世の没後 90 周年である。それにちなんで野口英世記念館様から記念館を PR してほしいという依頼を受け、本プロジェクトを行うことになった。野口英世記念館は来館者の多くが年配の方と家族連れであり、若者が記念館の存在を知らない現状である。そこで私たちは、野口英世記念館様と連携を取りながら若者に向けて PR するために SNS で拡散されるような話題性のあるグラフィックツールを制作することに決定した。また、前半には野口英世青春広場のイベントのチラシ制作の依頼も受けた。

### 研究の目的

野口英世記念館・野口英世青春広場でのイベントの存在を周知し、より多くの観光客(主に若者)に訪れてもらうことが目的である。特に猪苗代町にある野口英世記念館は、若松市内にある野口英世青春館を混同して認識する人が非常に多く、野口が猪苗代町出身だということを明確に宣伝できていない。また、野口英世の業績や人物像なども正しく認知してされていないことが多いため、猪苗代町の記念館に誘導するためのグラフィックツールを制作することに決定した。

### 研究のプロセス



6月上旬に野口英世青春広場の方からイベントのチラシ制作の依頼を受けたため、会津短期大学の学生アンケート調査と同時進行で行った。アンケート結果をもとに7月上旬に野口英世記念館様と打ち合わせを行った。打ち合わせから、SNS を頻繁に活用する若者をターゲットに、写真撮影スポットとして情報を拡散してもらえるようなトリックアートで PR することにした。8月上旬に完成・公開開始となった。それに合わせて撮影方法を説明するパネルも同時に制作した。

その後 10 月の打ち合わせで野口英世記念館を訪れようとするが、若松市内に行ってしまう人が多いという話を伺った。この問題を解決するため野口英世記念館広報大使のヒディを用いたポスターを制作し、記念館独自の PR に繋げようと考えた。ノベルティグッズについては、野口やヒディの特徴であるひげを描写した葉を制作した。透明なフィルムに印刷することで、自分の顔に当て、野口風の写真を撮影することもできるよう工夫した。

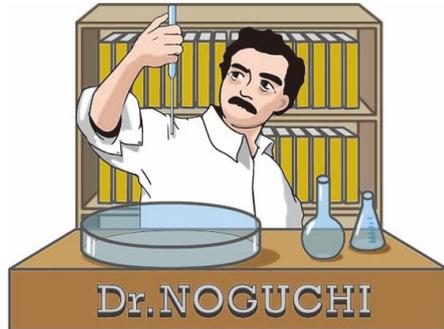
### 成果物(完成作品)

●「Dr.ノグチ健康フェスタ チラシ」 [制作数]1点 [サイズ]210×297mm

今までは「ドクトル野口健康祭り」という堅いイメージのあるイベントだったが、今回チラシを制作するにあたり、イベントの名前を「Dr.ノグチ健康フェスタ」という柔らかい雰囲気になる名前にし、それに伴うチラシを制作した。

●「野口英世トリックアート」 [制作数]1点 [サイズ]2×3m

話題性を呼ぶようなグラフィックツールにしたいと考え、SNS を通して若者が拡散できるようなトリックアートを制作した。当初の狙い通りの影響を与えることができたと感じている。記念館の学芸員の方からも打ち合わせの際に大変好評であるという報告を頂いた。実際にツイッターやインスタグラムなどの SNS にトリックアート前での撮影の様子が投稿されていることも確認した。



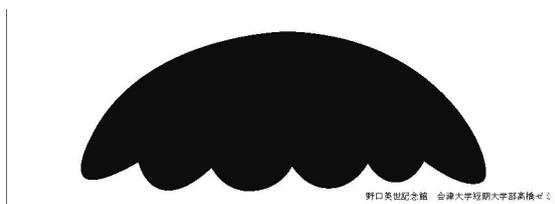
●「野口英世ゆかりの地ポスター」 [制作数]16種類 [サイズ]515×728mm

会津の野口英世ゆかりの地や観光客の集まるスポット8か所×2枚のポスターを制作した。野口英世記念館の広報大使「ヒディ」を用いることで、記念館のポスターだということが分かるようにした。また、野口英世ゆかりの地に掲載することで、野口英世記念館の存在を知らせるとともに記念館までの誘導ができるのではないかと提案した。

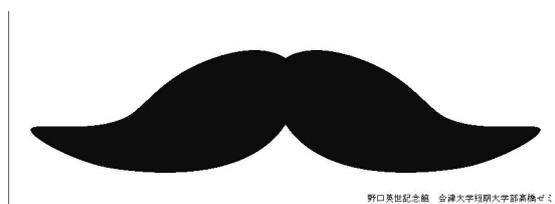


●「ノベルティグッズ」 [制作数]2種類 [サイズ]110×40mm

野口英世記念館から常に勉学に励んでいた野口のエピソードから、文房具商品化が希望だったので野口英世の特徴でもあるひげをモチーフにした葉を制作した。透明のフィルムに印刷してあり、自分の顔に当て、撮影することで自分にひげがついているような遊び方もできる。SNS などに掲載することで興味をもってもらえるのではないかと考える。



野口英世記念館 会津大学短期大学部美術ゼミ



野口英世記念館 会津大学短期大学部美術ゼミ